

儘物別れとなつたのである。次いで二十一日より連日前後九
 回に亘り會社を訪問したるも其の都度工場門衛に入門を拒絶
 せられ、會社側は管野組を通じてなすべく直接交渉には應じ
 難しとして、取り合はないので、目的を達すること能はず、遂
 に會見を断念したのであるか、其の間一方アデヒラ多數を數
 回（八月二十日、二十一日、二十四日）工場並に三井關係工
 場鐵山附近に撤布し、更に市民の同情に訴へ一般労働者に呼
 びかゝる爲め演説會を計劃し（第一回二十日夜豫定のところ
 會場を拒絶されて中止）二十六日夜市内不知火町劇場中座に
 會社糾弾演説會を開催し聴衆約四〇〇名に達した。

2、會社側の態度

會社側では今回の争議職員は管野組所屬の人夫にして會社と
 は雇傭關係なしとして歎願管を受理せず、且つ會見申込をも拒

絶し來つたのであるが、上京中の工場長が八月二十四日歸來
 すると共に最高幹部會で協議したるも從來通管野組を通じて
 來る以外直接會見には應ぜざること決定したのである。

然るに管野組に在りては今回の賃銀問題は人夫側に同情する
 點もあるも、進んで會社側に要求の取次の態度にも出でな
 かつたのである。

かゝる内右與團體の介入せんとするあり双方の關係漸次尖鋭
 化すると共に本争議の他工場大波及するを憂へた會社當局は
 二十六日に至り本工場の人夫供給團員業組合長にして且つ大
 株主たる大牟田商工會議所會頭田畑守吉に解決斡旋を依頼す
 ることとなつた。

十四、解決狀況

右會社側より依頼された調停者は解決條件の腹案を作り、二